

# ストーリー説明における発話能力の評価

桜井喜久子

## 要 旨

評価は、その結果が学習者の今後の学習方法などや教授方法の検討などに生かされていかなければならないものであるが、そのためには評価表が信頼性、妥当性の高いものでなければならない。本稿ではとくに会話テストのうちストーリー説明における評価について、すでに使用された評価表についての問題点を検討することにより、今後の評価表の項目や方法について考えていきたい。

【キーワード】 発話能力 評価項目 ストーリー説明

## 0. はじめに

一般的に会話テストといわれるものにはいくつかの種類がある。本稿ではその中のストーリー説明についての評価について考えていきたい。この形式のテストは、どの被験者にも同じ絵を見せ、ほぼ同じような条件でテストを行えるため、結果を比較する場合にも他の条件などを考慮する必要があまりないし、各被験者が絵を見て考え出した解釈を加えて、自由に発話することができるという利点がある。

本稿では、今回使用された評価表をもとに、評価の結果得られた問題点を検討し、学習者の今後の学習方法や教授法により生かされやすい評価表への改善案を考えていく。テストの条件の統一をはかりやすいというこの形式のテストの特徴のため、今回考えていく改善案も、将来それをとり入れた評価表による評価が同じテストで行われた場合にもその妥当性が劣るといふ恐れもあまりないであろうと考えられる。

## 1. 分析の方法

### 1. 1 対象者とインタビューの方法

対象者は筑波大学の文部省、研究留学生である。これらの学習者は6カ月の日本語研修コースを受講（Aコース）し、今回のテストはその最終テストとして行われた。テストをうけた学習者は19名で、これらの学習者を本稿ではF1～F19という記号で示すことにした。ただし、F13については、ストーリーの説明を途中で放棄してしまったので、今回の調査の対象からは、はずすことにした。

インタビューの方法は学習者にストーリーのある6コマの絵を見せ、その絵のストーリーについて説明させるものであるが、学習者が未習であるか、既習であってもこれまでに1、2度見た程度

でありふれられなかった語彙については語彙表を与えた。評価者である教師は「説明してください。」と指示するだけで、ほかには特別な指示を与えないことにした。学習者は絵と語彙表を見て、自分なりにストーリーをまとめたあと説明することになる。

## 1. 2 分析の方法

分析の方法としては、まず従来の評価表での評価の結果をもとにその問題点について検討してみた。さらに日本人にもおなじ方法でインタビューを行い、それを録音し文字化し、同様に文字化した学習者のものとを比較検討することによって、今後の新しい評価表への改善案を考えていくことにした。なお今回の文字化はいわゆるどもってしまった場合や言いよどみまでを入れることにした。

## 2. 評価項目の検討

### 2. 1 今回の評価項目について

インタビューの評価に必要な項目は、一般的に文法、語彙、内容、理解力、流暢さ、態度、発音などがあげられる。今回のストーリー説明の評価ではこれらの項目のうち必要であると考えられたのは、文法、内容、語彙、流暢さ、態度、発音についての評価であった。他の理解力については評価は、ストーリー説明の性格上、2人の会話形式をとらないので、評価する必要がないと考えられた。

評価しなければいけないと考えられた文法については「形式」という項目で評価することにした。また内容については「内容」の項目をたて、語彙についての評価は、この内容についての評価項目でひろく評価していくことにした。さらに「機能」についての欄をもうけ、ストーリー説明全体で説明としての機能を果たしているかを評価した。発音については特に項目を設けなかったが、特に気になる発音の問題についてはコメントの欄に記すことにした。また、「態度」の項目を設け、態度が説明する時のものとして適当であったかどうかを評価することにした。さらにこの態度に含まれるものではあるが、説明するときの視線や声の大きさも評価の対象として別に項目をたてた。そして、流暢さについての評価は今回は「言い淀み」という項目で評価することにした。さらに各学習者にたいして特に気付いたことなどもコメントの欄に記すことにし、上に述べた評価項目では評価しきれなかったことなどを補うものとした。このようにして作成したAコースでの最終インタビューで使用した評価表は付録1にあるとおりである。上に述べたように、評価項目としてあげられたのは、「内容」「形式」「機能」「態度」「視線」「声の大きさ」「言いよどみ」の7項目とコメントの欄である。

以下にこれらの評価項目について問題点を検討しながら、今後の新しい評価表への課題を考えていきたいと思う。

### 2. 1 内容

この評価表の項目では、説明しなければいけない6つの絵について、それぞれ老人の状況、サル  
の状況、そしてサルと老人の関連について、評価者が理解できたかどうかによって、○×をつけて

いくものである。○の意味は「相手に通じる」で、×の意味は「相手に通じない」と評価表には示してある。ここでの「相手」とは評価者のことである。

今回複数の評価者が評価したなかには、○×の2段階だけでは評価し難かった場合に、評価者が独自に△を加えて、3段階での評価を加えているものが多かった。確かに2段階では評価し難いような話を聞いていてなんとかわかるというような場合もあり、内容については○「よくわかる」、△「なんとかわかる」、×「わからない」の3段階にしたほうがよいと思われ、この3段階による内容についての評価結果は表1にしめしたとおりである。この内容についての表で同じような評価を得ていたF 8とF 11 (26点と25点)、F 2とF 12 (24点と21点) について以下の項目ではどのように評価されているかを見ていながら、それぞれの項目の問題点について考察していきたいと思う。

表1

|      | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 合 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|-----|
| F 1  | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 4 | 20  |
| F 2  | 4 | 6 | 2 | 2 | 4 | 6 | 24  |
| F 3  | 4 | 4 | 2 | 1 | 0 | 6 | 17  |
| F 4  | 3 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 33  |
| F 5  | 4 | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 28  |
| F 6  | 6 | 6 | 6 | 6 | 2 | 0 | 26  |
| F 7  | 4 | 4 | 2 | 6 | 6 | 6 | 28  |
| F 8  | 3 | 5 | 6 | 0 | 6 | 6 | 26  |
| F 9  | 4 | 6 | 5 | 0 | 0 | 6 | 21  |
| F 10 | 3 | 3 | 2 | 2 | 6 | 1 | 17  |
| F 11 | 2 | 6 | 6 | 2 | 3 | 6 | 25  |
| F 12 | 4 | 6 | 6 | 1 | 1 | 3 | 21  |
| F 14 | 4 | 2 | 2 | 2 | 4 | 1 | 15  |
| F 15 | 4 | 3 | 3 | 0 | 0 | 4 | 16  |
| F 16 | 4 | 6 | 6 | 2 | 4 | 5 | 25  |
| F 17 | 2 | 6 | 6 | 0 | 6 | 5 | 28  |
| F 18 | 4 | 4 | 4 | 2 | 4 | 2 | 18  |
| F 19 | 4 | 4 | 4 | 2 | 0 | 4 | 18  |

注1) ①～⑥は絵の番号を示す

注2) 点数は○は2点、△は1点、×0点

## 2. 2 機能

今回のストーリー説明では機能として「聞き手に状況がわかる」ということと、「聞き手におもしろさがわかる」ということをあげた。これについての評価結果は表2に示したとおりである。この結果を内容の評価結果と比較してみると、内容についての評価ではほぼ同点であったF8とF11の場合、機能についての評価は、F8が0点でF11が2点とまったく違う評価を受けていることになる。内容としては2人とも同じような評価を受けておきながら、なぜF8の説明はストーリー説明の機能を果たしていないと評価され、F11は果たしていると評価されているのであろうか。この点については内容以外の要素がかかわってきていると考えられる。同じような例はF12とF2でも見られる。内容についての評価ではこの2人はほぼ同じ点数であるのに、機能の評価では、まったく逆の評価を受けている。

表2

|     |   |     |   |     |   |
|-----|---|-----|---|-----|---|
| F 1 | 1 | F 7 | 1 | F14 | 1 |
| F 2 | 2 | F 8 | 0 | F15 | 0 |
| F 3 | 1 | F 9 | 1 | F16 | 0 |
| F 4 | 2 | F10 | 0 | F17 | 0 |
| F 5 | 2 | F11 | 2 | F18 | 1 |
| F 6 | 1 | F12 | 0 | F19 | 0 |

## 2. 3 形式

形式についての評価は、表3に示したとおりである。さらに誤用の状況を調べた結果は表4のとおりである。これらの結果を比較してみると、内容と機能においてみられたような矛盾点がここでもあらわれてくることになる。まず、F8とF11を比較してみると、形式における評価ではF8が7点であったのに対して、F11は10点であった。しかし、誤用の数はF8が7カ所であったのに対して、F11は20カ所と誤用数と形式での得点の間には矛盾がある。F2とF12は、形式についての評価では、F2は13点、F12は6点であった。これにたいして、誤用数はF2が8カ所で、F12が7カ所であるというように、誤用の数は形式の評価にあまり影響を与えていないようである。

また、機能の評価で2点であった学習者は、形式ではすべて10点以上であるが、10点以上の学習者のすべてが機能での評価が2点なのではなく、F16、F17のように、0点の場合もある。

表3

|     | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 合計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|----|
| F 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 9  |
| F 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 13 |

|      |   |   |   |   |   |   |    |
|------|---|---|---|---|---|---|----|
| F 3  | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 8  |
| F 4  | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| F 5  | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 10 |
| F 6  | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 10 |
| F 7  | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 10 |
| F 8  | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7  |
| F 9  | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 7  |
| F 10 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3  |
| F 11 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 10 |
| F 12 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 6  |
| F 14 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8  |
| F 15 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 5  |
| F 16 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | 2 | 13 |
| F 17 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 15 |
| F 18 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| F 19 | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 2 | 9  |

表 4

|     | 助詞<br>ぬけ | 助詞<br>誤用 | 活用<br>アス | 語彙 | テン<br>ス | 語順 | その<br>他 | 合計 |
|-----|----------|----------|----------|----|---------|----|---------|----|
| F 1 |          |          |          | 1  | 5       | 2  |         | 8  |
| F 2 |          | 1        | 2        | 5  |         |    |         | 8  |
| F 3 | 1        | 2        | 1        | 5  |         |    |         | 9  |
| F 4 |          | 4        |          | 2  |         |    |         | 6  |
| F 5 |          | 2        | 3        | 2  |         |    |         | 7  |
| F 6 |          | 3        | 1        | 1  |         | 1  |         | 6  |
| F 7 |          | 1        | 1        |    |         |    | 1       | 3  |
| F 8 | 1        | 1        | 3        | 2  |         |    |         | 7  |
| F 9 | 7        | 3        | 3        | 2  |         | 1  |         | 16 |
| F10 | 8        | 12       | 2        | 7  | 1       |    |         | 30 |
| F11 | 4        | 7        | 5        | 2  |         |    | 2       | 20 |
| F12 | 2        | 2        | 2        | 1  |         |    |         | 7  |
| F14 | 3        | 3        | 3        |    |         |    |         | 9  |

|     |   |   |   |   |   |   |   |    |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|----|
| F15 |   | 3 | 1 | 5 |   |   | 1 | 10 |
| F16 |   | 5 | 1 | 2 | 1 |   |   | 9  |
| F17 |   | 1 | 1 |   |   | 1 |   | 3  |
| F18 | 3 | 3 |   | 3 |   |   |   | 9  |
| F19 | 1 |   | 2 | 5 |   |   | 1 | 9  |

## 2. 4 言い淀み

言い淀みについては、評価表では点数が高いほど言い淀みが少なく、流暢であると考えられる。この評価項目ではほとんどの学習者が2点ないしは3点の評価を受けている。ここでのF8とF11、そしてF2とF12の評価はF8は2点であったのにたいして、F11は4点であった。また、F2は4点であったのにたいしてF12は2点であった、これを形式についての評価と比較すると、誤用数より言い淀みの結果が形式についての評価の結果に影響を与えているようである。

表5

|     | 点数 |     | 点数 |     | 点数 |
|-----|----|-----|----|-----|----|
| F 1 | 4  | F 7 | 3  | F14 | 3  |
| F 2 | 4  | F 8 | 2  | F15 | 2  |
| F 3 | 3  | F 9 | 3  | F16 | 2  |
| F 4 | 5  | F10 | 2  | F17 | 2  |
| F 5 | 3  | F11 | 4  | F18 | 3  |
| F 6 | 3  | F12 | 2  | F19 | 3  |

## 2. 5 態度 視線 声の大きさ

これらの評価項目については、事前の評価者間の打ち合わせが十分でなかったことや評価項目が多かったこと、また、時間的な余裕があまりなかったことなどから、評価されていない場合が多かった。これらの項目についてはインタビューをしているその場で評価することが重要であり、今回は調査の対象から外すことにした。

## 3 評価項目の問題点の検討

以上のような各評価項目における問題点をさらに検討するために、日本人の発話との比較を試みることにした。

### 3. 1 形式

2-3ではおもに誤用数つまり正確さの面からの比較から形式について検討をしたが、さらに複雑さの面から考えてみることにする。

### 3. 1. 1 表現文型

まずどのような表現が使用されたかということのみをみてみた。おもな表現文型については付録2に示したとおりである。この結果おもな表現文型について、日本人は9人で33種類の表現を使用しているのに対して、学習者は18人で26種類の文型を使用している。全体として種類の数からだけみると、今回のストーリー説明の場合、母語話者と学習者のあいだでもそれほどの差がみられなかった。しかし、各個人の表現文型の種類は日本人の場合、1人約12種類の表現を使用しているが、学習者の場合は1人約5種類の表現しか使用していない。

学習者のうち、2種類しか使用していない学習者のF12とF19と、5種類使用している学習者F14を比較してみると、内容についてはF12とF19はそれぞれ21点と18点で、F14の15点よりよい評価を受けている。しかし機能についての評価ではF12とF19が0点であったのにたいして、F14は1点で「聞き手に状況がわかる」という評価を受けている。他の場合でも5種類以上使用している場合は、ほとんど機能では1点以上の評価をうけている。また学習者のうち表現の種類が多いのはF1、F2、F6であるが、これらの学習者が内容においても最も高い評価を受けているわけではない。さらに形式の点数と比較してみると、上のF12、F19、F14は、それぞれ形式では6点、9点、8点で、点数の上では変わりが無い。他の場合でもF1とF2、F3 F9とF14のように表現文型が同数であっても形式での評価が異なることが多い。このように表現文型の影響が評価にあらわれるのは、機能のみであるが、表現文型を使いこなしている力を評価する項がこれだけであるのも問題である。

### 3. 1. 2 文数と各文中の語数

さらに、文の長さからその複雑さをみるために、文数、各文中の語数について検討してみる。表6に示したように文数自体には日本人と学習者との間にはきわだった差はない。各絵における文数を見ても、むしろ絵によっては学習者のほうが文の数は多い場合もある。

表6-1

|     | ①   | ②   | ③   | ④   | ⑤   | ⑥   | 合計   |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| F 1 | 3.0 | 4.0 | 1.0 | 2.0 | 3.0 | 2.0 | 15.0 |
| F 2 | 3.0 | 3.0 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 13.0 |
| F 3 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 3.0 | 12.0 |
| F 4 | 5.0 | 3.0 | 7.0 | 2.0 | 2.0 | 6.0 | 25.0 |
| F 5 | 1.0 | 1.0 | 3.0 | 4.0 | 1.0 | 3.0 | 13.0 |
| F 6 | 2.0 | 2.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 11.0 |
| F 7 | 1.0 | 3.0 | 2.0 | 2.0 | 3.0 | 3.0 | 14.0 |
| F 8 | 2.0 | 4.0 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 13.0 |
| F 9 | 6.0 | 3.5 | 2.5 | 1.0 | 4.0 | 3.0 | 20.0 |

|     |     |     |     |     |     |      |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| F10 | 2.0 | 5.0 | 2.0 | 3.0 | 0.5 | 2.5  | 15.0 |
| F11 | 3.0 | 5.0 | 5.0 | 2.0 | 2.0 | 10.0 | 27.0 |
| F12 | 4.0 | 3.0 | 3.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0  | 14.0 |
| F14 | 2.0 | 3.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.0  | 12.0 |
| F15 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 3.0 | 5.0 | 3.0  | 15.0 |
| F16 | 2.0 | 1.0 | 3.0 | 1.0 | 5.0 | 1.0  | 13.0 |
| F17 | 2.0 | 1.0 | 3.0 | 1.0 | 5.0 | 1.0  | 13.0 |
| F18 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0  | 10.0 |
| F19 | 3.0 | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 3.0 | 2.0  | 17.0 |
| 平均  | 2.7 | 2.9 | 2.4 | 2.0 | 2.4 | 2.5  | 14.7 |

表6-2

|     | ①   | ②   | ③   | ④   | ⑤   | ⑥   | 合計   |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| J 1 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 12.0 |
| J 2 | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 4.0 | 11.0 |
| J 3 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 3.0 | 2.0 | 4.0 | 15.0 |
| J 4 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 3.0 | 2.0 | 4.0 | 15.0 |
| J 5 | 2.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 9.0  |
| J 6 | 2.0 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 1.0 | 3.0 | 11.0 |
| J 7 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 0.5 | 3.5 | 10.0 |
| J 8 | 2.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 6.0 | 4.0 | 16.0 |
| J 9 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 8.0  |
| 平均  | 2.2 | 2.1 | 1.4 | 1.9 | 1.9 | 3.1 | 11.9 |

注)①-⑥は絵の番号を示す

「平均」以外の小数以下の数は文の途中で次の絵の説明に入っていることを示す。

そこで、さらに各文の長さをみるために文の語数をみてみることにする(表7、8)と、学習者は6語文までがほとんどで、5語文が最も多くなっている。これにたいして、日本人は様々な語数の文を使用し、必要に応じて長くしたり短くしたりしているようである。この結果を学習者と比較してみると、形式での得点の低かったF10、F12、F17は6語文までの文を使用し、使用される語数の幅も非常にせまい。また、点数の高かったF2、F18は、使用される語数の幅が広く、10点以上のものは10語文以上の文を使用している場合が多い。



しかし、F7、F16のように、10点以上であっても8語文あるいは7語文までの文しか使用していない例もあり、これらについては他の面からの評価が大きく影響しているようである。

表7

|     | 1 | 2 | 3  | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
|-----|---|---|----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|
| F1  |   |   | 1  |   | 2 | 1 | 4 |   | 2 | 2  | 1  | 1  | 1  |    |
| F2  | 1 | 1 |    | 4 |   | 2 | 1 | 2 |   |    |    | 1  |    |    |
| F3  |   |   | 1  |   | 3 | 2 | 1 | 2 |   |    |    |    | 1  |    |
| F4  | 2 | 2 | 3  | 7 | 5 | 2 | 2 |   | 1 | 1  |    |    |    |    |
| F5  |   | 1 | 2  | 2 | 2 | 2 | 1 |   | 1 | 1  |    | 1  |    |    |
| F6  | 1 | 1 |    |   | 2 | 1 | 3 | 1 | 1 |    |    |    |    |    |
| F7  | 1 |   | 2  | 2 | 5 | 2 | 1 | 1 |   |    |    |    |    |    |
| F8  |   |   | 2  | 5 | 3 | 2 |   | 1 |   |    |    |    |    |    |
| F9  | 1 |   | 5  | 4 | 3 | 1 | 3 | 1 |   |    | 1  |    |    |    |
| F10 |   | 1 | 4  | 4 | 4 | 2 |   |   |   |    |    |    |    |    |
| F11 | 1 | 2 | 10 | 3 | 4 | 3 | 1 | 1 |   | 1  |    |    |    | 1  |
| F12 | 1 | 5 | 5  | 3 |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |
| F14 |   |   |    | 4 | 6 | 1 | 1 |   |   |    |    |    |    |    |
| F15 | 1 | 3 | 3  | 1 | 4 | 2 |   |   | 1 |    |    |    |    |    |
| F16 | 1 | 2 | 1  | 6 | 2 |   | 2 |   |   |    |    |    |    |    |
| F17 | 2 | 3 | 3  | 3 | 1 |   |   |   |   |    |    |    |    |    |
| F18 |   |   |    | 3 | 2 | 3 |   | 1 |   |    | 1  |    |    |    |
| F19 | 4 | 2 | 1  | 3 | 2 | 4 | 1 | 3 |   |    |    |    |    |    |

表8-1

|    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| J1 |   | 1 |   | 1 |   | 1 | 1 | 1 | 1 | 1  | 1  |
| J2 | 1 | 1 |   | 3 |   | 2 |   | 2 |   |    |    |
| J3 | 1 |   |   | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1  | 2  |
| J4 |   |   | 1 |   |   | 1 |   | 2 | 2 | 1  | 2  |
| J5 | 1 | 1 |   | 1 | 2 | 3 |   |   |   | 1  |    |
| J6 |   | 1 | 3 | 3 | 1 | 1 | 2 |   |   | 1  |    |

|     |  |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |
|-----|--|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|
| J 7 |  |   |   |   | 2 |   | 3 | 3 |  |   | 1 |
| J 8 |  | 2 | 3 | 5 | 1 |   | 2 |   |  | 3 |   |
| J 9 |  |   | 1 |   |   | 1 | 1 | 1 |  |   |   |

表8-2

| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | その他 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|    | 1  |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 1  |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |     |

注) J 9 のその他の欄にある23は23語文、24は24語文のこと。

### 3. 1. 3 文節数

次に文節数をみってみることにする。これも表9に示したように各絵の文節数をわけて示すことにした。まず各絵における日本人の平均文節数は絵①が13.4、絵②が17.7、絵③が9.7、絵④が13.8、絵⑤が11.4、絵⑥が20.4というようになっている。これを各学習者の文節数と比較してみると、全体的には日本人のものより文節数は少なくなっている。①から⑥の絵にたいする文節数は日本人の場合、②と⑥で数が多くなっており、①から⑥で文節数には学習者ほど大きな変化はみられない。また、後半の絵になるほど文節数が少なくなるということもない。しかし、評価表の形式において高い点数であったF 2, F 4, F 11などについては、文節数はほぼ日本人の場合に近い数であったり、またはそれ以上であったりする場合が多い。

表9

|     | ①  | ②  | ③  | ④  | ⑤  | ⑥  | 総文節数 |
|-----|----|----|----|----|----|----|------|
| J 1 | 13 | 20 | 10 | 14 | 16 | 28 | 101  |
| J 2 | 4  | 20 | 15 | 12 | 8  | 13 | 72   |
| J 3 | 26 | 23 | 12 | 19 | 12 | 29 | 121  |
| J 4 | 12 | 14 | 11 | 8  | 10 | 20 | 75   |
| J 5 | 12 | 12 | 8  | 13 | 10 | 14 | 69   |
| J 7 | 13 | 13 | 11 | 13 | 1  | 28 | 79   |

|     |      |      |     |     |      |      |      |
|-----|------|------|-----|-----|------|------|------|
| J 8 | 9    | 17   | 10  | 10  | 23   | 13   | 66   |
| J 9 | 14   | 20   | 0   | 23  | 10   | 24   | 91   |
| ※ 1 | 13.4 | 17.8 | 9.7 | 13. | 11.4 | 20.4 | 84.8 |

注) ※ 1 は平均文節数をしめす

表10

|     | ①  | ②  | ③  | ④  | ⑤  | ⑥  | 総文節 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|
| F 1 | 22 | 35 | 7  | 15 | 24 | 18 | 121 |
| F 2 | 18 | 17 | 4  | 10 | 13 | 13 | 75  |
| F 3 | 26 | 20 | 6  | 7  | 9  | 22 | 90  |
| F 4 | 28 | 14 | 30 | 5  | 8  | 28 | 113 |
| F 5 | 12 | 10 | 11 | 18 | 9  | 16 | 76  |
| F 6 | 15 | 14 | 11 | 16 | 7  | 9  | 72  |
| F 7 | 8  | 14 | 8  | 10 | 18 | 9  | 67  |
| F 8 | 8  | 15 | 6  | 10 | 9  | 13 | 61  |
| F 9 | 24 | 20 | 15 | 3  | 23 | 11 | 96  |
| F10 | 7  | 20 | 6  | 13 | 2  | 14 | 62  |
| F11 | 20 | 27 | 20 | 8  | 7  | 41 | 123 |
| F12 | 14 | 8  | 7  | 3  | 3  | 5  | 40  |
| F14 | 10 | 15 | 11 | 9  | 8  | 6  | 59  |
| F15 | 11 | 6  | 9  | 11 | 10 | 14 | 61  |
| F16 | 9  | 5  | 8  | 2  | 21 | 7  | 52  |
| F17 | 10 | 9  | 8  | 5  | 8  | 6  | 46  |
| F18 | 15 | 15 | 6  | 10 | 8  | 5  | 59  |
| F19 | 14 | 14 | 14 | 7  | 9  | 6  | 64  |

### 3. 1. 4 形式についての検討

以上のようにみえてくると、形式での評価が10点であるF 5, F 6, F 7, F11は得点では同じであるが、その評価の内容は、正確さ、複雑さの面ではそれぞれ異なっていることがわかる。誤用数全体ではF11が非常に多く、F 7が最も少ない。よって、正確さという面から見れば、F 7が最も正確であったということになる。しかし、各文中の語数はF 7が最も少なく、F11は数に幅がある。また、F 5、F 6では誤用はほとんど同じで、その数はF11の3分の1ほどである。しかし、文節数をみると、F11が最も多く、F 5, F 6の文節数との間にはかなりの差がある。またF 5の各絵における文節数は、その変化が日本人に似たかたちをとっているが、F 6は前半の絵に多く、後半

の絵では少ないというかたちをとっており。それが5番目、6番目の絵におけるF5、F6にたいする形式についての評価のちがいの原因の1つとなっているようである。

同様に2、3で検討したF2、F12についても、誤用数の形式への影響はみられなかったが、これを文節数などと比較すると、F2が75文節で各絵における文節数の変化もそれほど大きくはないが、F12は40文節で後半の絵において文節数が少なくなっており、この点が形式での評価に反映しているようである。

このように、同じ点数であってもその内容には形式の正確さ、複雑さの面で違いがあったり、点数の違いも正確さ、複雑さのどちらに起因しているのかを考えなければならない場合もある。よって評価の結果を今後に生かしていくためには、形式について、さらに誤用数、表現文型、全体での文節数と各絵における文節数などを調査していく必要がある。

## 3. 2 流暢さ

### 3. 2. 1 流暢さとしての項目

流暢さはコミュニケーション能力と呼ばれるものの一部であるが、Underhillはこのコミュニケーション能力として考えられるものの例として、size, complexity, flexibility, accuracy, independency, repetition, hesitation, appropriacy をあげている。これだけにコミュニケーション能力を限定してしまうのは問題があるが、今回はここにあげられているものについて検討を試みることにする。

この中のsize, complexity, accuracy, appropriacy についてはすでにみてきたとおりである。コミュニケーション能力はさまざまな能力が総合的に発揮される能力であるから、これらの能力もコミュニケーション能力の一部と考えるのは当然であろう。flexibilityは会話において変化していく話題に即応していけるというものであるが、今回のストーリー説明の場合はそのような状況に学習者がおかれることもないし、independencyもストーリー説明の場合には学習者自身によって説明がされるわけであるから、ここでは調査の対象からはずしてもよいと思われる。

よって、この流暢さを考察する項では、まだ考えられていないrepetitionと hesitation について考えてみたいと思う。repetitionとは質問などを繰り返すことであると、Underhillはのべているが、今回は「言い直し」もひろくこの中に含めることにした。言い直しは基本的には本間(1989)にしたがい、2音節以上で、言い直しとはっきりわかるものとしたが、1音節であっても助詞や活用語尾であるとはっきりわかるものも言い直しとして扱うことにした。またhesitationは発話者が話す前に躊躇している部分のことをいうが、これは「言い淀み」にあたると考えられ、その種類は表11、12に示した通りである。さらにどもってしまったものも言い直し、言い淀みに似た性格のものであり、別に「口ごもり」として考察することにした。

#### 3-2-1 言い直し、言い淀み、口ごもり

これら言い淀み、言い直し、口ごもりの学習者の発話と日本人の発話でのあらわれ方は表11、12

に示したとおりである。全体的な数も学習者の方が非常に多くなっているのは明らかである。とくに日本人の場合は言い淀みの数が他と比べてかなり多いJ 9を除いて平均すると、2.75であるが学習者の場合この数の10倍以上あるいはそれに近い数の者が半分以上にのぼっている。また言い直しでも同じような現象がおきているが、これはストーリー説明の場合、絵を見てあらかじめ自分なりにストーリーを考えておき、その絵を見ながら話すために、日本人の場合は言い淀み、言い直しの数は少なくなる傾向があるからであろう。

表11

|     | 言い淀み |    |    |    |    |    |    |    | 合計 | 言い直し | 口ごもり | 合計 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|------|----|
|     | エ-エ  | ア/ | ア- | ソ- | ソ/ | コ/ | マア | 合計 |    |      |      |    |
| J 1 | 1    | 1  | 1  |    |    |    |    | 3  | 3  | 1    | 7    |    |
| J 2 | 3    |    |    | 1  |    |    |    | 4  | 3  | 2    | 9    |    |
| J 3 | 1    |    |    |    |    |    |    | 1  | 0  | 0    | 1    |    |
| J 4 |      |    |    |    |    |    |    | 0  | 2  | 0    | 2    |    |
| J 5 | 3    |    |    |    |    |    |    | 3  | 2  | 0    | 5    |    |
| J 6 | 3    |    |    |    |    |    |    | 3  | 2  | 0    | 5    |    |
| J 7 | 1    | 2  |    |    | 1  |    |    | 4  | 0  | 5    | 9    |    |
| J 8 | 2    |    | 1  |    | 1  |    |    | 4  | 7  | 0    | 11   |    |
| J 9 |      | 3  |    |    |    | 7  | 3  | 13 | 2  | 0    | 15   |    |

表12

|     | 言い淀み |    |    |    |    |    |    |    | 合計  | 言い直し | 口ごもり | 合計 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|------|----|
|     | エ-エ  | ア/ | ア- | ソ- | ソ/ | コ/ | マア | 合計 |     |      |      |    |
| F 1 |      |    | 7  | 7  |    |    |    | 14 | 28  | 4    | 46   |    |
| F 2 |      |    | 2  |    |    |    |    | 2  | 13  | 2    | 17   |    |
| F 3 | 66   |    |    |    |    |    |    | 66 | 18  | 1    | 85   |    |
| F 4 | 3    | 8  | 9  |    |    |    |    | 20 | 13  | 2    | 35   |    |
| F 5 |      | 1  | 18 |    |    |    |    | 19 | 4   | 0    | 23   |    |
| F 6 | 21   |    | 18 |    |    |    |    | 39 | 19  | 4    | 62   |    |
| F 7 |      |    | 16 | 2  |    |    |    | 18 | 9   | 3    | 30   |    |
| F 8 | 69   | 8  |    |    |    |    |    | 77 | 109 | 5    | 191  |    |
| F 9 | 7    | 7  | 6  |    |    |    |    | 20 | 12  | 0    | 32   |    |

|     |    |    |    |   |  |  |   |    |    |   |    |
|-----|----|----|----|---|--|--|---|----|----|---|----|
| F10 | 23 | 1  | 8  | 1 |  |  |   | 33 | 15 | 5 | 53 |
| F11 |    | 23 | 27 |   |  |  |   | 60 | 34 | 1 | 95 |
| F12 |    |    | 24 |   |  |  |   | 24 | 5  | 2 | 31 |
| F14 | 17 | 1  | 1  | 2 |  |  |   | 21 | 11 | 3 | 35 |
| F15 | 16 |    | 5  | 4 |  |  |   | 25 | 34 | 5 | 64 |
| F16 | 16 | 1  | 20 |   |  |  |   | 37 | 34 | 3 | 74 |
| F17 | 5  |    | 12 | 3 |  |  | 4 | 24 | 14 | 3 | 41 |
| F18 |    |    | 17 | 4 |  |  |   | 21 | 21 | 1 | 43 |
| F19 |    | 1  | 57 |   |  |  |   | 58 | 24 | 3 | 85 |

言い淀みの種類は日本人の場合「エー」が最も多くなっているが、学習者の場合には母語に影響された「アー」「アン」が多く、数とは別にこの面も日本語らしい流暢さに欠けると判断される大きな要因の1つであるようだ。

### 3. 2. 2 言い直し、言い淀み、口ごもりの各文節における割合

言い直し、言い淀み、口ごもりについての日本人との差は、言い直し、言い淀み、口ごもりの数が各文節に現れる割合をみてみると、さらにはっきりする。

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 表13 | J 1 | 7%  | J 6 | 6%  |
|     | J 2 | 13% | J 7 | 11% |
|     | J 3 | 1%  | J 8 | 17% |
|     | J 4 | 3%  | J 9 | 16% |
|     | J 5 | 7%  |     |     |
|     |     |     | 平均  | 9%  |

|     |     |     |     |      |     |      |
|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|
| 表14 | F 1 | 38% | F 7 | 220% | F14 | 59%  |
|     | F 2 | 22% | F 8 | 313% | F15 | 104% |
|     | F 3 | 94% | F 9 | 33%  | F16 | 142% |
|     | F 4 | 31% | F10 | 85%  | F17 | 89%  |
|     | F 5 | 30% | F11 | 77%  | F18 | 72%  |
|     | F 6 | 86% | F12 | 78%  | F19 | 132% |

表13、14を比較してみると、日本人の場合、最高でも17%、最低では1%平均で9%の文節にあ

られるが、学習者の場合は300%以上、つまりすべての文節に3回以上言い直し、言い淀み、口ごもりが現れている場合もあり、これらが流暢さを損なう大きな原因の1つであることは、この点によってもよくわかる。

また学習者の評価表の「言い淀み」における点数とこの割合を比較してみると、F2、F4など高得点をあげている者は、この言い淀みなどの割合も低くなっているし、低い点数であった者は割合が高くなるという傾向がある。しかし、F5のように、F1、F4より割合は低いのに点数が低かったり、F11のように割合は高いが、点数が高いという場合もある。これは、言い直しや言い淀みなどしなくても、黙って考え込んでいたという時間、つまり、沈黙時間なども関係しているようであるが、今回は調査の対象としていないため、その影響についてはよくわからない。

2.3において誤用数は形式にあまり影響をあたえておらず、2.4では言い淀みは形式の点数に影響していることがみとめられるとのべたが、ここで、言い直し、言い淀み、口ごもりの文節における割合と、誤用数、形式での点数を比較してみると、F8とF11の場合、誤用数ではF11のほうがF8の倍以上であったのに形式での点数はF11の方がF8よりよかった。一方、言い直しなどの割合はF8は318%であるのに対して、F11が77%で、形式の点数に、言い直し、言い淀みなどの流暢さの要因が影響していることが分かる。またF2とF12の場合については、3.1.4でもふれたが、誤用数は8カ所(F2)と7カ所(F12)とあまり差がなかったが、形式の点数はF2が13点とF12が6点であった。一方、言い直しなどの割合はF2が22%、F12が78%で、ここでも流暢さの要素も形式に影響をあたえているようである。

#### 4 まとめ

以上のように評価表の各項目を本間(1989)を参考にさらに詳しく調査したわけがあるが、今回の結果からもストーリー形式のインタビューの評価も各項目の評価に他の要素が影響していることがわかった。3.2.1で述べたように Underhillはコミュニケーション能力のうちに文法力なども含んでいるが、コミュニケーション能力が様々な能力の総合的なものであるとすれば、それは当然のことといえるかもしれない。今回の結果からは特に言い淀みは形式の評価に大きな影響を与えていることは上に述べたとおりである。しかし、学習者の問題点を明らかにするためには、やはり2.1に述べたような項目について検討する必要がある。よって、インタビューをコミュニケーション能力を評価する方法だとすれば、まず、インタビューを総合的に評価し、その結果をさらに詳しく調査して、今後役に立てていくことが必要なのではないだろうか。つまり、インタビュー全体で総合的にストーリーがわかりやすいと感じるか、わかりにくいと感じるか、あるいは、聞き取りやすいか、聞き取りにくいかを判断し、次になぜそのような結果が出たのかをさらに詳しくみていかなければならないのではないだろうか。

しかし、これらの結果を出すためには何段階かの作業が必要であり、これをインタビュー時にすべて行うことは不可能である。今回のテストでも評価表が2ページにわたっていたが、評価されていない項目があったことは、評価項目の多さと、時間のバランスがとれていなかったことも大きな

原因の1つであったと思われる。よって、そのような問題を解決するために、評価を大きく2段階に分ける必要があると思われる。すなわち第1段階は直接評価する際におこなうもので、インタビューをしているときに、直接総合的な内容や形式、態度、流暢さを評価する段階とし、第2段階は、録音テープやVTRなどを使用して、内容や形式、流暢さなどについて具体的な数値におきかえて、より詳しく検討を加える段階とするというものである。つまり、インタビューしているときに直接行う直接評価によって全体的な印象で評価したり、総合的に評価したもののどこに問題点があったのかということ、さらに詳しく第2段階の間接評価で検討し今後に役立てていくというものである。この考えに基づいて、今回の評価表からの反省をふまえて、具体的な評価項目を考えてみると、直接評価では

- 1 内容 各絵についての総合的な状況がわかるかどうかを評価する。
- 2 形式 各絵についての形式を総合的に評価する。
- 3 機能 ・ストーリーのおもしろさまでわかるか  
・内容はわかるか  
について全体の印象から評価する。
- 4 流暢さ 今回の評価表と同様の5段階評価で全体の流暢さについての印象を評価する
- 5 態度 口頭で表現できないとき、だまって考え込むか絵を指し示すことによって補うかなど

が挙げられるのではないだろうか。ただし5の態度については、今回検討の対象からはずしたため、その項目についてはさらに考察する必要がある。

また間接評価で検討していくものは

- 1 内容
- 2 形式
- 3 流暢さ

の3点が挙げられるのではないだろうか。内容については各絵にたいする老人、サル、それぞれの状況と両者の関連について詳しくチェックするものとし、形式についてはさらに表現文型、語文数、全体の文節数および各絵の文節数、誤用について調査し、今回得られた日本人にインタビューした結果との比較検討を行う。また流暢さについては言い直し、言い淀み、口ごもりなどを調査し、これらをあわせて検討することにより、各学習者の問題点を明らかにし、今後の授業のありかた、あるいは学習者の学習方法を指導していく上で有効に利用していけるものとした。

ただし、今回も評価者間で評価基準の統一がはかれず、調査の結果にも矛盾点としてあらわれきた点もあり、今後は事前に評価者間で評価基準について統一をはかるための話し合いをすとか、時間的に余裕がある場合には評価の統一がとれるようにするためのトレーニングなどがなされることが望ましいと思われる。

## 文 献

1. 伊藤弘子 (1976) 「話す力のテスト」『英語教育』大修館



2. 高見沢孟 (1977) 「米国務省日本語研修所の場合」『日本語教育』32号 日本語教育学会
3. 植松 清 (1978) 「会話テストの改善をめざして」『紀要』第2号 国際学友会日本語学校
4. 安藤淑子 (1979) 「口頭表現能力の評価」『講座 日本語教育』第15分冊 早稲田大学語学教育研究所
5. Underhill, Nic (1988) "Testing Spoken Language" Cambridge University Press
6. 本間倫子 (1989) 「発話能力評価表の問題点について」『筑波大学留学教育センター日本語論集』第4号

## ストーリー説明“サル”評価用紙

学生氏名

評価者氏名

## 【採点法】

- 1.各場面では、老人、サル、両者の関連が適切に表現されているかを○×で採点します。
- 2.文法にかんしては、5段階で評価してください。
- 3.2頁目の機能ということは、物語全体の説明の仕方から判断しての評価です。

| 内容 | 相手に通じる → ○                        | 相手に通じない → ×                    |
|----|-----------------------------------|--------------------------------|
| 形式 | 0. 混乱、誤解がおこる<br>2. 多少ミスがあるが気にならない | 1. ミスが多く、気になる<br>3. ミス、省略がなく完全 |

## 【評価表】

| 各場面の表現内容<br>(こだわることはない)          | 内 容   |       |       | 形式 |
|----------------------------------|-------|-------|-------|----|
|                                  | 老人の状況 | サルの状況 | 両者の関連 |    |
| ① 帽子売りの老人が木の下にいて、木の上には猿がいる。      |       |       |       |    |
| ② 老人が眠ってしまったので、サルが帽子を取って行った。     |       |       |       |    |
| ③ 老人が目覚めると、サルは木の上で帽子をかぶっていた。     |       |       |       |    |
| ④ 老人が怒って、手をあげると、サルも手をあげた。        |       |       |       |    |
| ⑤ 老人が困って帽子をとり、頭に手をやるとサルもまわをした。   |       |       |       |    |
| ⑥ まわしていることに気付き、老人が帽子を捨てるとサルも捨てた。 |       |       |       |    |

- |         |                           |              |
|---------|---------------------------|--------------|
| 【機能】    | 1. 聞き手に状況がわかる             | 0. わからない     |
|         | 1. 聞き手におもしろさがわかる          | 0. わからない     |
| 【態度】    | 1. 落ち着いている                | 0. 落ち着いていない  |
| 【視線】    | 1. 聞き手を見ている               | 0. 聞き手を見ていない |
| 【声の大きさ】 | 1. 適当                     | 0. 小さすぎる     |
| 【言い淀み】  | 5 自然に流れる                  |              |
|         | 4 時に言い淀みはあるが、不自然さは感じない    |              |
|         | 3 言い淀みはあるが、流れる（少し耳ざわりである） |              |
|         | 2 言い淀みが多く、不自然さを感じる        |              |
|         | 1 言い淀みがかなりあり、まったく流暢さが無い   |              |

コメント

## 主な表現文型 (J1~J9)

|            | J 1 | J 2 | J 3 | J 4 | J 5 | J 6 | J 7 | J 8 | J 9 | 合計 |
|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| ～ている       | 3   | 1   | 3   | 3   | 4   | 7   | 3   | 1   | 1   | 26 |
| ～て、～       | 1   | 2   | 7   | 4   | 2   | 4   | 1   |     | 2   | 23 |
| 連体修飾       | 2   | 1   | 2   |     |     | 1   | 2   | 2   |     | 10 |
| ～てしまう      | 1   | 3   | 1   | 2   | 3   | 2   | 1   | 3   | 3   | 17 |
| ～と、～ (仮定)  | 1   | 2   | 2   | 3   | 2   | 1   |     |     | 1   | 12 |
| ～てくる       |     |     | 1   |     | 2   | 2   |     | 1   | 2   | 8  |
| ～たら        | 2   |     |     |     |     |     | 1   |     | 1   | 4  |
| ～て (理由)    |     |     | 1   | 2   |     | 1   | 1   | 2   |     | 7  |
| ～の (もの)    |     |     |     |     |     | 1   |     |     | 1   | 2  |
| A (連用) そう  |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     | 1  |
| Vあいだ       |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 1   | 2  |
| ～のに        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| ～ば         |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 1  |
| ～ておる       |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 4   | 5  |
| 連用終止       |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 1  |
| Nばかり       | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| 命令形        | 1   | 1   | 1   |     |     | 1   |     | 2   |     | 6  |
| Vだけ        | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| Vよう        | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| (場所) で     | 1   | 1   | 1   | 1   | 2   |     | 2   |     |     | 8  |
| Vたり        |     |     | 1   |     |     |     |     |     |     | 1  |
| Vことができる    | 1   |     | 1   | 1   |     |     | 1   |     |     | 4  |
| NのN (N=N)  |     |     |     | 1   |     | 1   |     |     |     | 2  |
| ～に いる/ある   |     | 1   | 1   |     |     | 1   |     |     |     | 3  |
| ～が/けど      |     |     |     |     | 1   |     |     |     |     | 1  |
| ～と思う       |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     | 1  |
| ～と言う       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     | 1  |
| vこと/もの/ところ |     |     |     |     | 1   |     |     | 1   |     | 2  |
| ～から/ので     | 1   | 1   | 1   |     |     |     |     |     | 2   | 5  |
| ～というN      | 2   |     |     |     |     |     |     |     |     | 2  |

付録2-1

|           | J 1 | J 2 | J 3 | J 4 | J 5 | J 6 | J 7 | J 8 | J 9 | 合計  |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ～とき       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vたあと      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vながら      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vてみる      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～で (限定)   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| あげる       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vために      |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     | 1   |
| Vてもらう     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～になる／くなる  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vてほしい     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vたい       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| もらう       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～というN     | 2   |     |     |     |     |     |     |     |     | 2   |
| ～ていく      |     | 1   |     |     | 1   |     | 1   |     |     | 3   |
| ～ば        |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 1   |
| Vうち       |     | 1   |     |     |     | 1   |     |     |     | 2   |
| Vために      |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     | 1   |
| ～と (引用)   |     |     |     |     | 1   | 1   | 3   | 2   | 4   | 11  |
| 使用表現文型の種類 | 14  | 11  | 13  | 10  | 10  | 14  | 13  | 10  | 11  | 33  |
| 使用合計回数    | 27  | 15  | 31  | 19  | 19  | 25  | 19  | 16  | 22  | 193 |

## 主な表現文型 (F1~F9)

|             | F 1 | F 2 | F 3 | F 4 | F 5 | F 6 | F 7 | F 8 | F 9 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ～ている        | 2   | 2   | 1   | 1   | 3   | 1   | 3   |     | 3   |
| ～て、～        | 7   | 4   | 3   | 2   | 3   | 1   | 1   |     | 2   |
| 連体修飾        | 1   | 1   |     | 1   |     | 1   |     |     |     |
| ～てしまう       | 1   | 4   |     |     |     | 1   |     |     |     |
| ～と、～ (仮定)   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～てくる        |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     |
| ～ていく        |     | 1   |     |     |     |     |     |     |     |
| ～たら         |     | 1   | 2   |     |     |     | 1   | 1   |     |
| ～て (理由)     |     |     |     |     |     |     |     | 3   | 1   |
| ～の (もの)     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| A (連用) そう   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| V あいだ       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～のに         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～ば          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～ておる        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 連用終止        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| N ばかり       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 命令形         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| V だけ        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| V よう        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| (場所) で      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| V たり        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| V ことができる    |     |     | 1   |     |     |     |     |     |     |
| N の N (N=N) |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～に いる/ある    | 1   |     | 2   |     |     | 1   | 1   | 1   | 1   |
| ～が/けど       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ～と思う        |     |     |     | 1   |     |     |     | 1   |     |
| ～と言う        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| V こと/もの/ところ |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     |
| ～から/ので      |     |     |     | 3   |     | 2   | 1   |     | 1   |

付録2-2

|           | F 1 | F 2 | F 3 | F 4 | F 5 | F 6 | F 7 | F 8 | F 9 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ～というN     |     |     | 1   |     |     |     |     |     |     |
| ～とき       | 1   |     |     |     | 2   |     | 1   |     | 2   |
| Vたあと      |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |
| Vながら      |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |
| Vてみる      |     |     |     |     | 2   |     | 1   |     | 1   |
| ～で (限定)   |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     |
| あげる       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     |
| Vために      |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     |
| Vてもらう     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     |
| ～になる／くなる  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vてほしい     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| Vたい       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| もらう       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 使用表現文型の種類 | 7   | 7   | 6   | 6   | 3   | 8   | 5   | 5   | 6   |
| 合計使用回数    | 14  | 15  | 10  | 10  | 8   | 9   | 6   | 9   | 11  |

## 主な表現文型 (F10 ~ F19)

|              | F10 | F11 | F12 | F14 | F15 | F16 | F17 | F18 | F19 | 合計 |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| ～ている         |     | 6   | 2   | 2   |     | 5   | 2   | 2   | 2   | 35 |
| ～て、～<br>連体修飾 | 1   | 1   |     | 2   | 1   |     | 1   | 2   |     | 34 |
| ～てしまう        |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     | 5  |
| ～と、～ (仮定)    | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     | 6  |
| ～てくる         |     |     |     | 2   |     |     |     |     |     | 1  |
| ～たら          |     | 1   |     |     |     |     | 1   |     |     | 2  |
| ～て (理由)      |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 3  |
| ～の (もの)      | 1   |     |     | 1   |     |     |     |     | 2   | 5  |
| A (連用) そう    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 8  |
| Vあいだ         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| ～のに          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| ～ば           |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| ～ておる         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| 連用終止         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| Nばかり         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| 命令形          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| Vだけ          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| Vよう          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| (場所) で       |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 2  |
| Vたり          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| Vことができる      |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| NのN (N=N)    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| ～に いる/ある     |     |     |     |     |     | 2   |     | 1   |     | 10 |
| ～が/けど        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| ～と思う         |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 3  |
| ～と言う         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
| Vこと/もの/ところ   |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     | 3  |
| ～から/ので       |     |     |     |     | 2   | 2   |     | 1   |     | 11 |
| ～というN        |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |



付録2-3

|           | F10 | F11 | F12 | F14 | F15 | F16 | F17 | F18 | F19 | 合計  |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ～とき       |     | 1   |     |     |     |     |     | 1   |     | 12  |
| Vたあと      |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 2   |
| Vながら      |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| Vてみる      |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| ～で (限定)   |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| あげる       |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| Vために      |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| Vてもらう     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| ～になる／くなる  | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |
| Vてほしい     |     | 1   | 1   |     |     |     | 1   |     |     | 3   |
| Vたい       |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 1   | 2   |
| もらう       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 使用表現文型の種類 | 4   | 5   | 2   | 5   | 2   | 4   | 5   | 5   | 2   | 26  |
| 合計使用回数    | 4   | 10  | 3   | 11  | 3   | 10  | 7   | 9   | 5   | 154 |

注) 誤用を含む

合計の数は F1 ～ F19 までを含めたものである